



第27回 中央大分水界と 織田家の城下町・柏原

2026 4/16

「中央分水嶺」探訪マップ

●中央分水嶺としての範囲

中央分水嶺の大半は山稜や山頂・峠等に位置するが、山群の一部や山腹、時には高原や郊外などの平地に位置することもある。これらを総称して分水界と呼ぶが、本書では平地上に位置するものを分水界と表記しました。

4本の支嶺については仮称として、知床支嶺・日高支嶺・四国支嶺・脊振支嶺と表記しました。

- ①【知床支嶺】 支嶺南側／太平洋へ
支嶺北側／オホーツク海へ
- ②【日高支嶺】 支嶺東側／太平洋東側へ
支嶺西側／太平洋西側へ
- ③【四国支嶺】（紀伊半島・四国・九州支嶺）
支嶺南側／太平洋へ
支嶺北側／瀬戸内海へ
支嶺南側／東シナ海へ
支嶺北側／日本海へ
- ④【脊振支嶺】 支嶺南側／東シナ海へ
支嶺北側／日本海へ

中央分水嶺と支嶺について
日本列島を大きくとらえた場合、太平洋に流下する河川と日本海に流下する河川に二分される。両者の流域の境界線が中央分水嶺である。



「分水界」と「分水嶺」は同じ意味です



日本列島を
縦断する
6000キロの旅へ



行った場所

かいばら

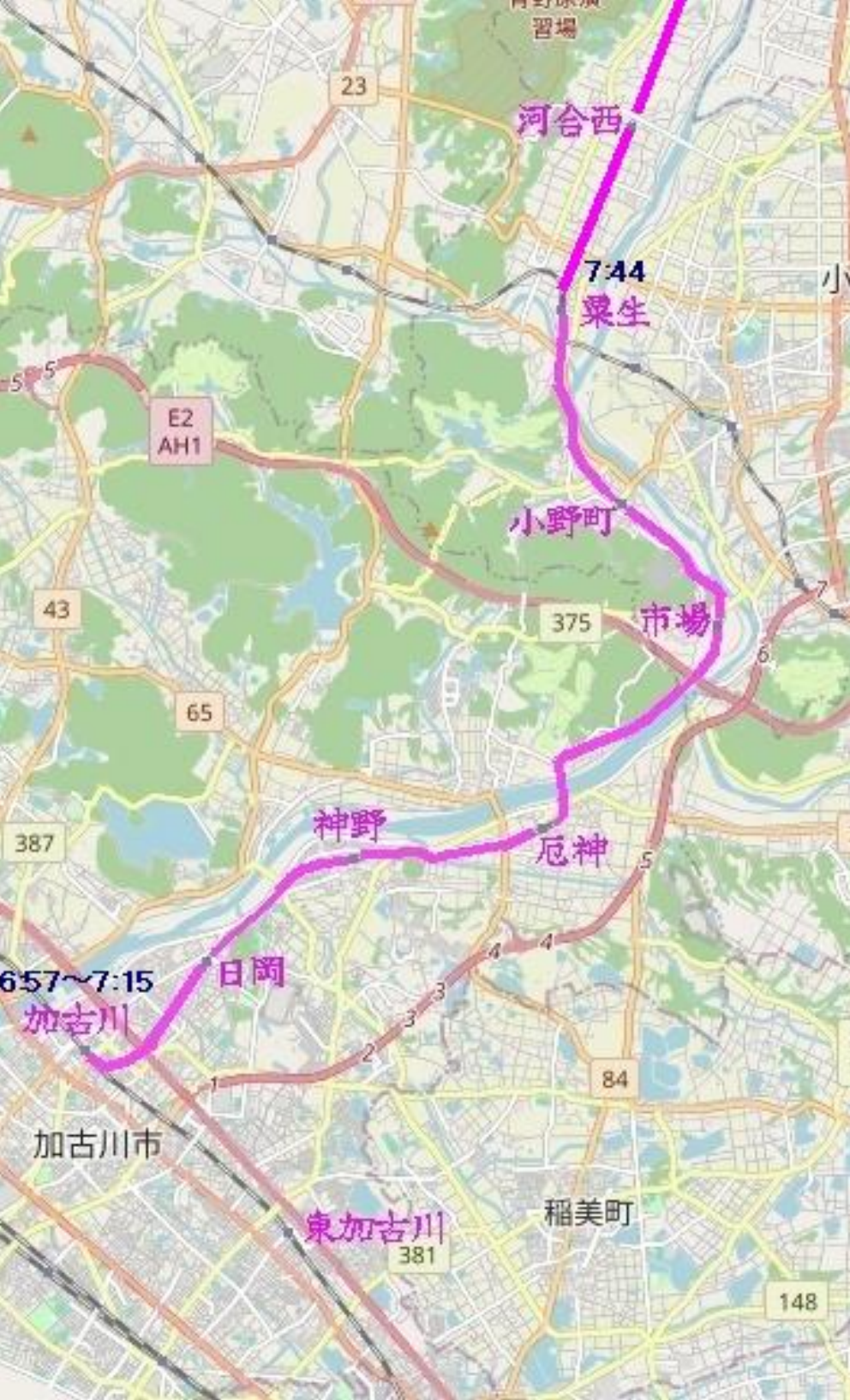
宝殿
657~7:15
加古川
高砂市
加古川市
東加古川
日岡
稲美町
土山
播磨町
魚住
大久保
6:45
西明石
明石
明石市
山陽新幹線
E93
84
377 514
175 427
377 378
148
83
52
21
16
210



②加古川駅で
加古川線に
乗り換え

電車は
2両だった

③加古川線で加古川駅から西脇市駅へ





④西脇市駅到着





西脇市駅で
何かを
研究中

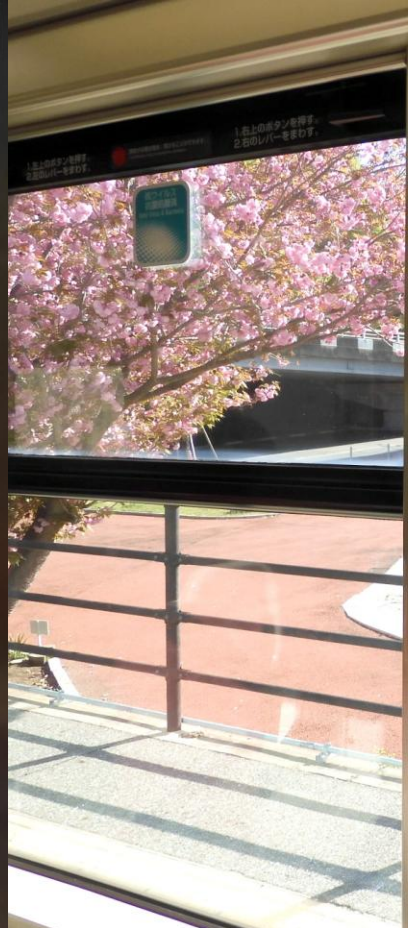
⑤西脇市駅にて 谷川行きの列車に乗り換え





谷川駅行き（1両電車）の車内風景





車窓風景



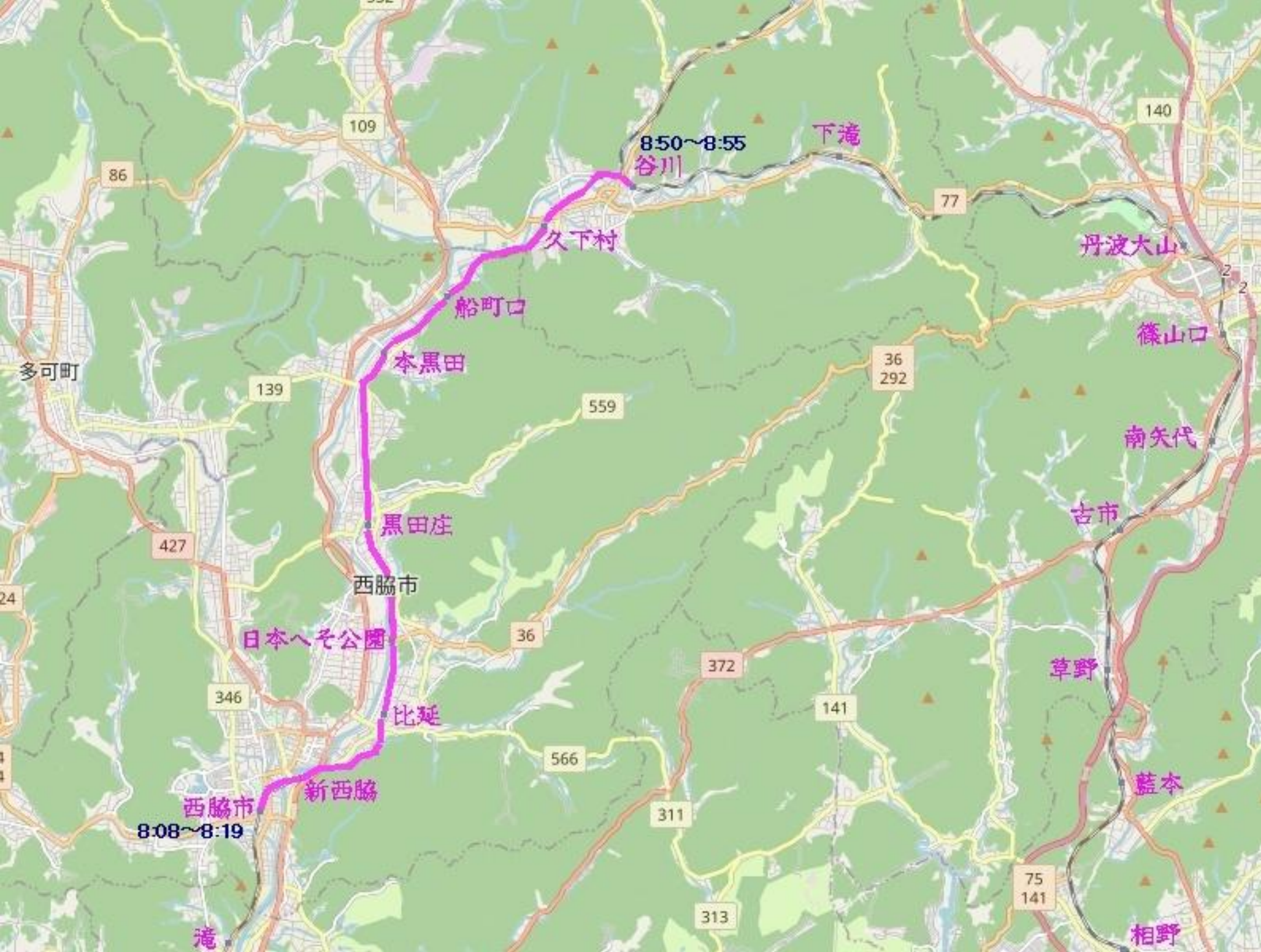
運賃は **黒田庄 Kurodashō** まで (単位: 円)

加古川 Kakogawa	1 日岡 Hioka	2 神野 Kanno	3 厄神 Yakujin	4 市場 Ichiba
770	680	680	590	510
10 滝野 Takino	11 滝 Taki	12 西脇市 Nishiwakishi	13 新西脇 Shin-Nishiwaki	14 比延 Hie
240	240	210	210	190
20 谷川 Tanikawa				

こども半額 (ただし10円未満のは数は切り捨てます。)

5 小野町 Onomachi	6 粟生 Ao	7 河合西 Kawainishi	8 青野ヶ原 Aonogahara	9 社町 Yashirocho
510	420	330	330	240
15 日本へそ公園 Nihonhesokoen	16 黒田庄 Kurodashō	17 本黒田 Hon-Kuroda	18 船町口 Funamachiguchi	19 久下村 Kugemura
150				

乗車駅名 運賃

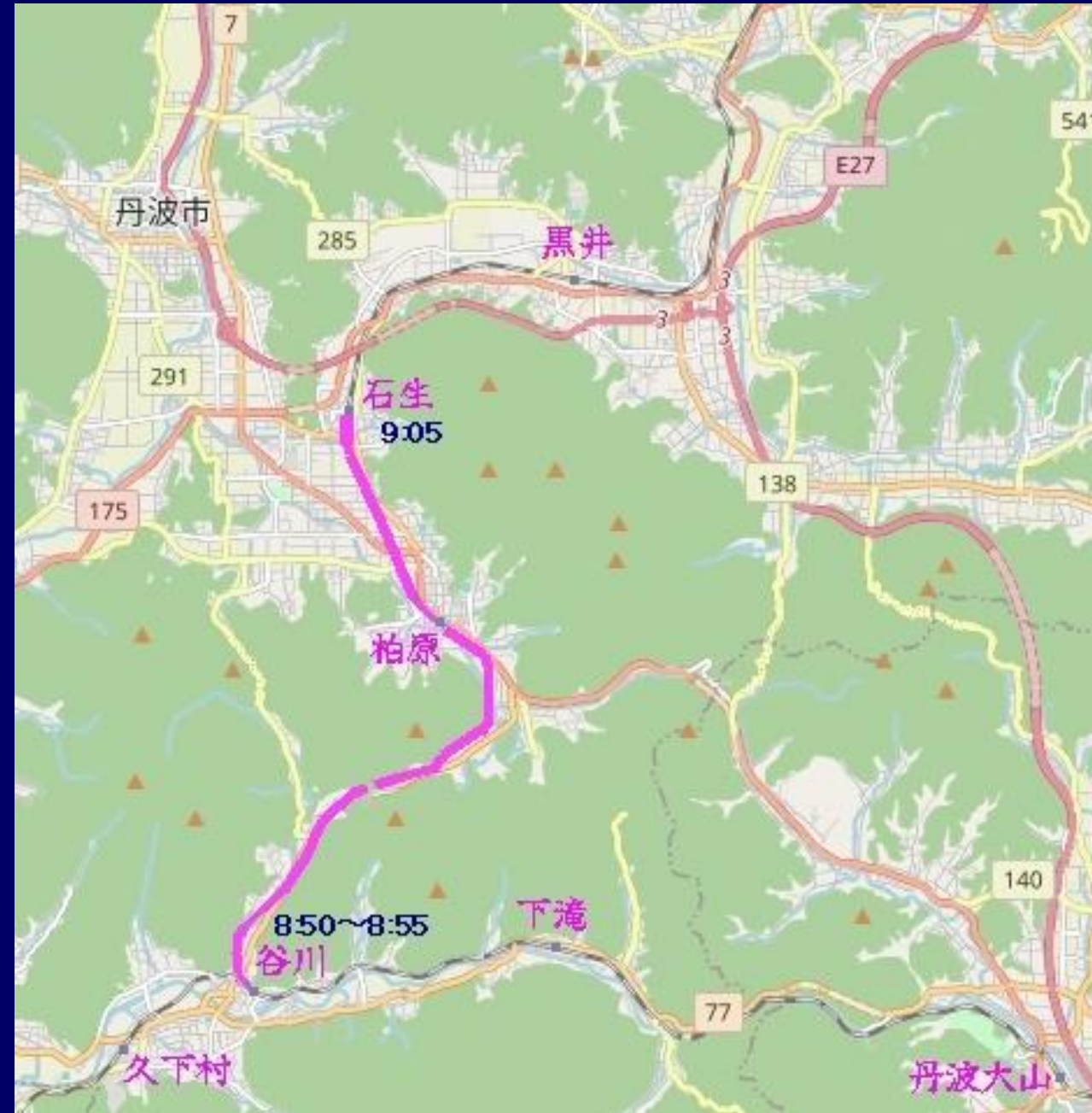


⑥加古川線で
終点の
谷川駅へ



⑦加古川線の
終点
谷川駅に到着





谷川駅は超レトロな駅。ここから

⑧福知山線に 乗り換え石生（いそう）駅へ



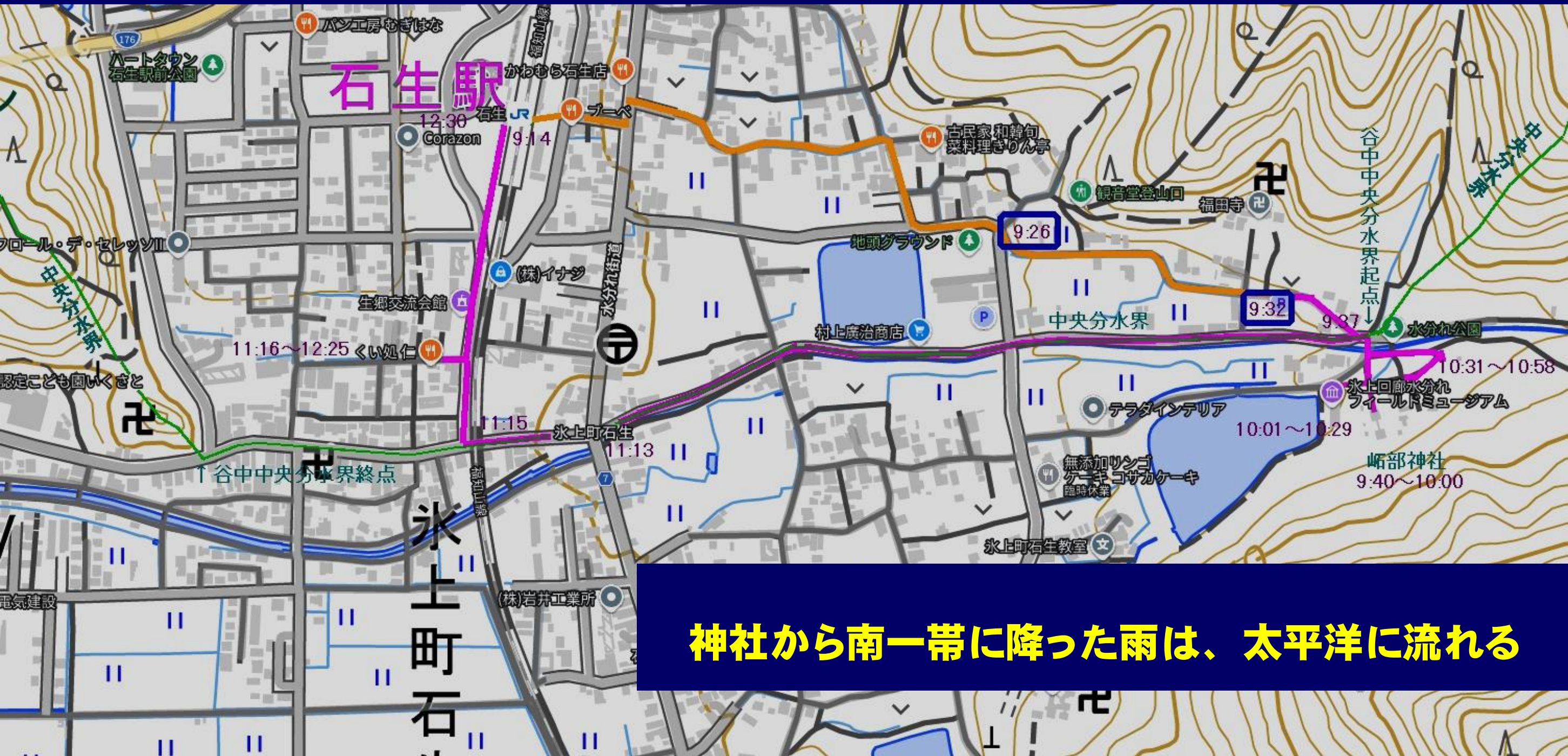
⑨石生駅に無事到着

記念撮影

この駅から 創建が古代という いそ部神社に向かう



駅から神社への道一帯に降った雨は、日本海に流れるが



神社から南一帯に降った雨は、太平洋に流れる



**駅から神社への途中にある
向山登山口である観音堂の桜も
福田寺の桜もすでに散っていた**



**いそ部神社に着きました。「いそ」の字は
石碑や鳥居の額と同じ「石」の字を使います**



赤い橋(延喜橋)が
架かっている
高谷川は
本来は
太平洋に
そそぐ川
ですが
土手の右岸に
このような
切り込みが
入れられ
日本海にそそぐ
水路が
作られている



高谷川に架けられた
赤色の延喜橋を渡り、
両部鳥居の
二ノ鳥居をくぐり
本殿に向かい
石畳を歩くと、
すぐが
「御禊(みそぎ)橋」
である
その左手には
かつて
清水が
湧き出ていた。
「岩清水」という



「岩清水」 について

昔は
周辺が
旱魃であっても
枯れたことのない
清水があった。

今は、その場所に
岩をくりぬいた
手水鉢が
置かれている。



拝殿の前の狛犬

「岩清水」 橋の右手には、湧き水があった
昔を偲ぶかのように
小さな泉水が作られている。



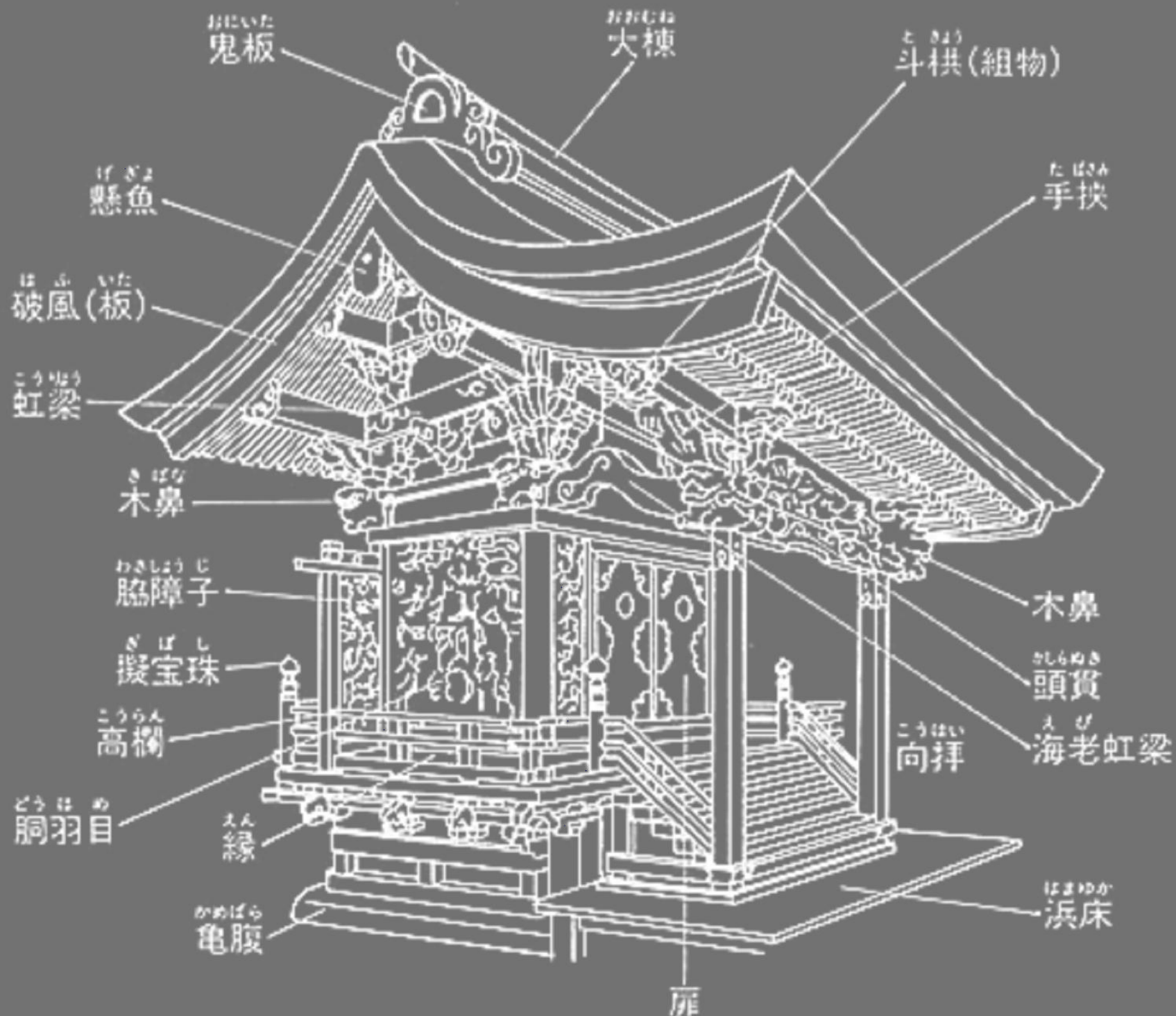
三間流れ造りの本殿

本殿屋根の千木と鯉木が
特殊な形をしている



入母屋造りの拝殿

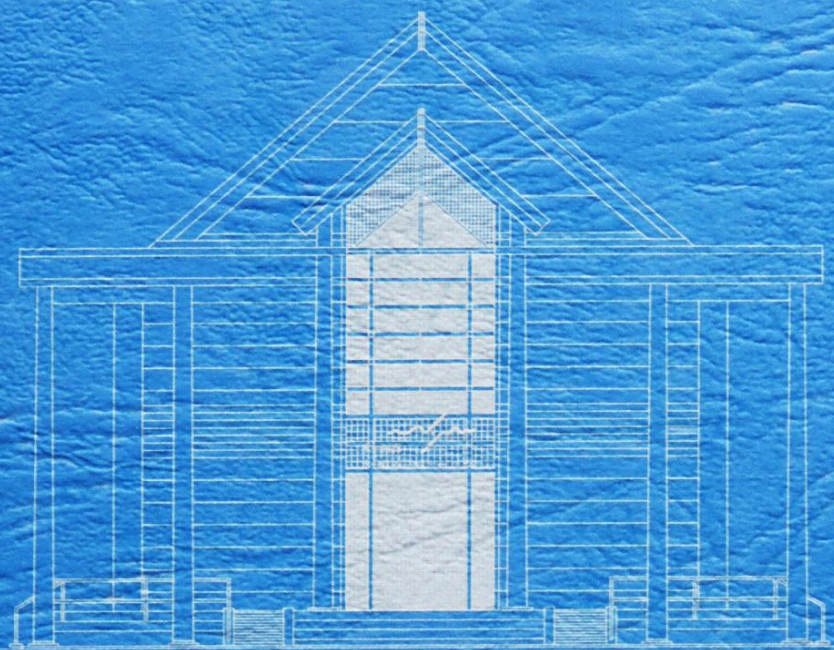
拝殿は、中で宴ができそうな
構造で、仏教寺院に似ている



豪華な造りの本殿

- ①本殿と拝殿の間の四脚門
 - ②本殿の脇障子の立派な彫刻
 - ③本殿周りの高欄
- など凝った構造が見られる





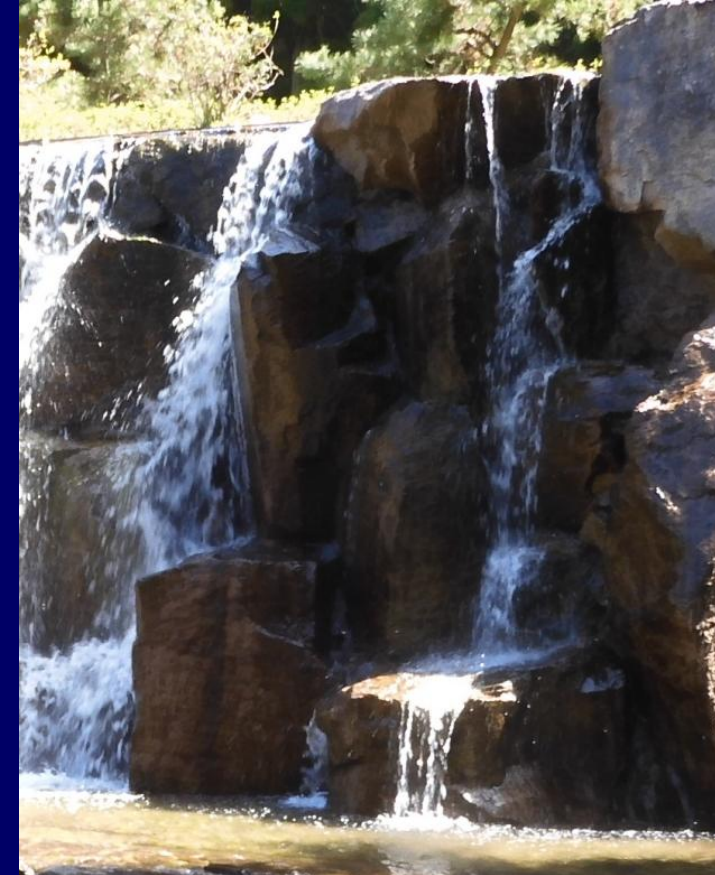
小さいけれど、
学びがいっぱいの博物館



氷上回廊
水分れフィールドミュージアム
Hikamikaire Watershed FIELD MUSEUM



神社の隣に 「水分れフィールドミュージアム」という
博物館があったが、どちらかというと学童向きで、
さしてみるべきものがなかった。



**水分れ公園は、水が満ち溢れ、ベンチなどもあり
気持ちの良い公園だった。**





高谷川の
土手道は
遅咲きの
八重桜が
ちょうど
見ごろ
だった。



八重桜 とともに 思わず 記念撮影



高谷川の 右岸の道が 日本海 と 太平洋 の 分水界なのだ

ちゅうおうぶんすいかい

いそう

みわか

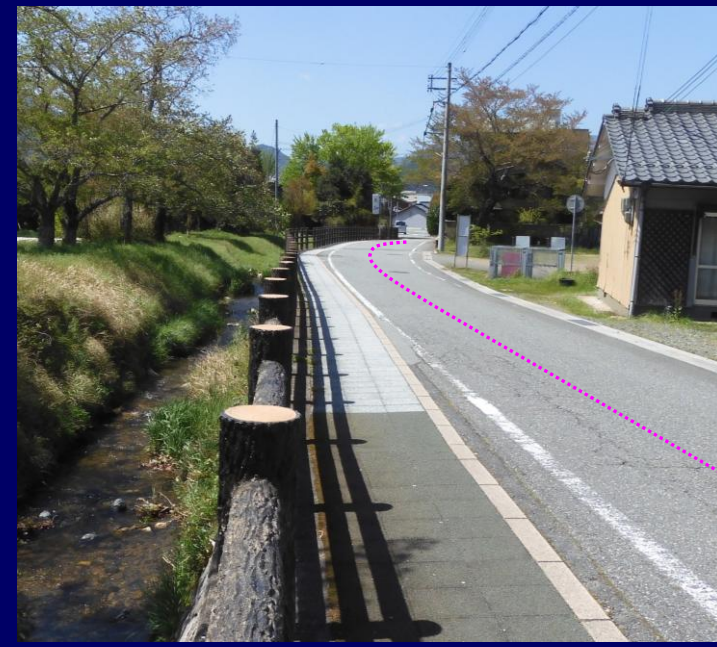
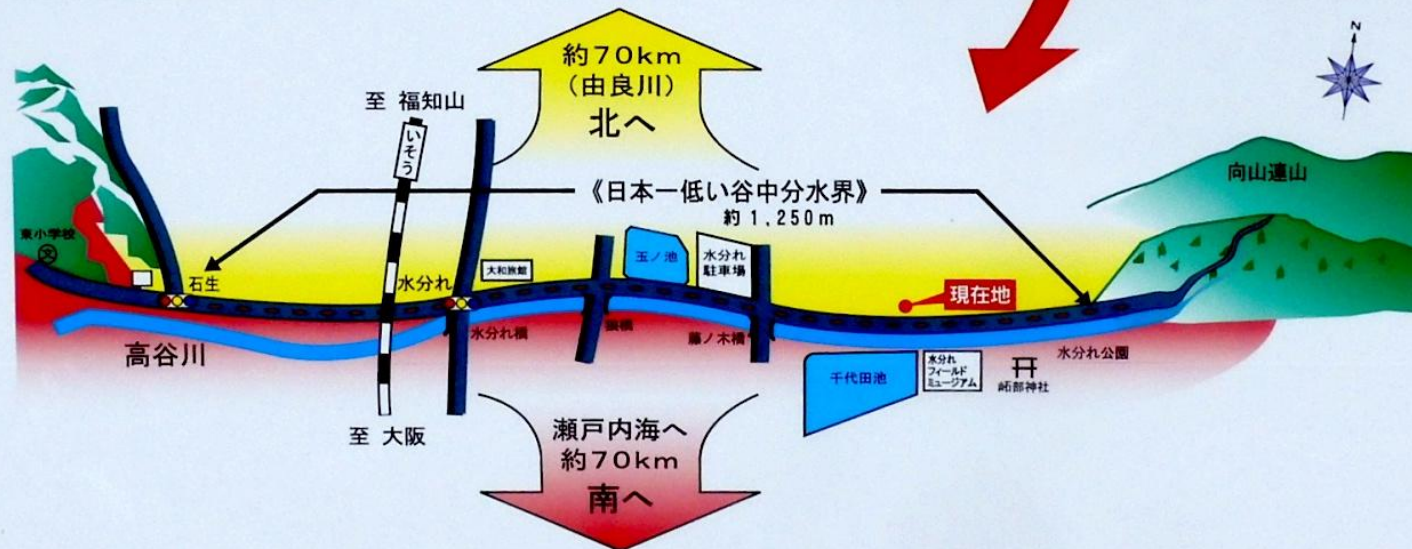
中央分水界と石生の水分れ

ここは日本列島の背骨『中央分水嶺』の線上にあるところです。

この看板の右側の道路の中央が「分水界」で、中央より左側（北側）の雨水は由良川を流れて日本海へ、一方は右側（南側）の雨水は高谷川から加古川へ注いでいます。

後方にみえる山のふもと「石生交差点」から前方の山すそ

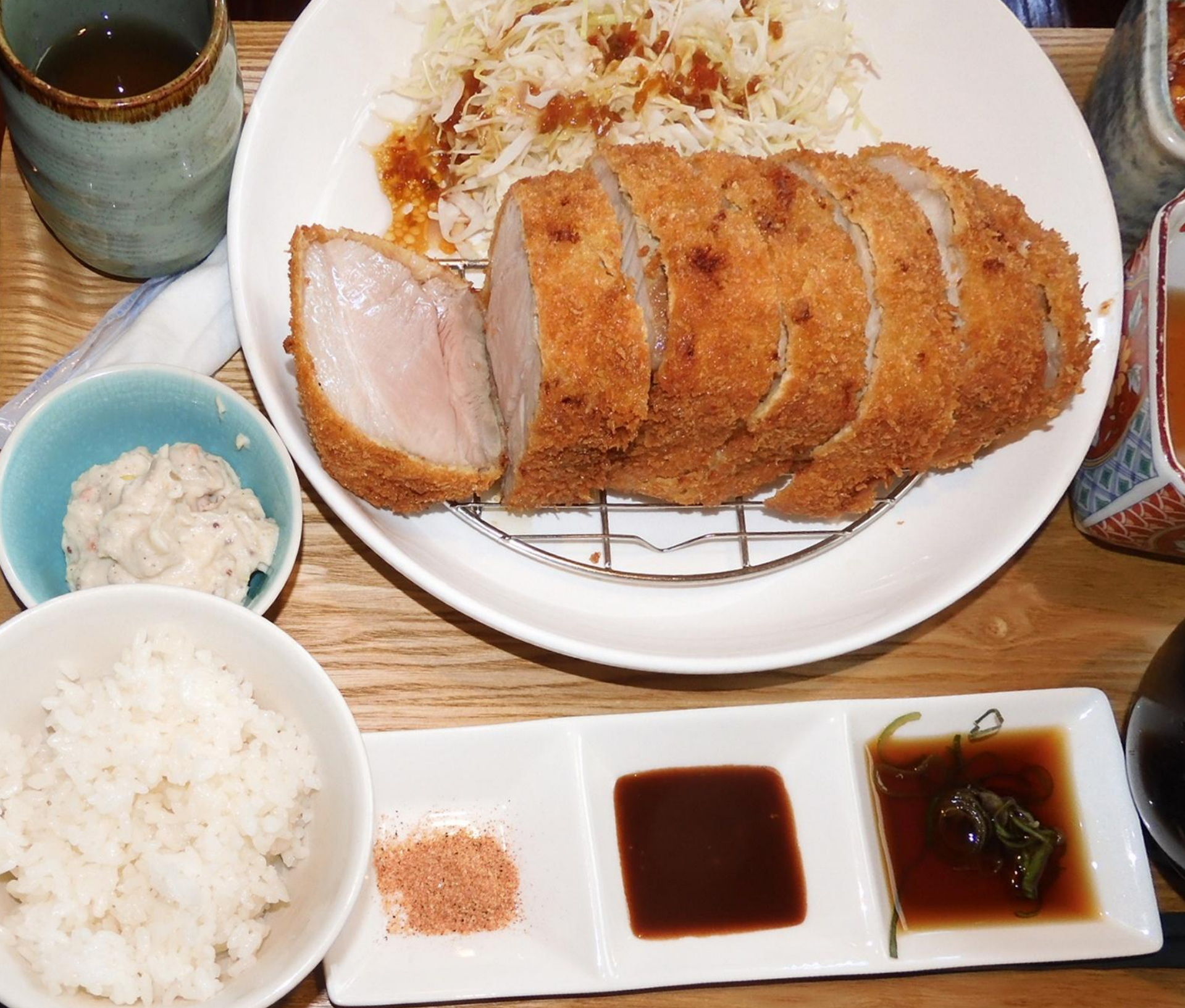
「水分れ公園」の奥までの1,250メートルの間は全く平地のなかで分水しており
標高95.45メートルは
日本一低い谷中分水界です。



写真の
わずかに高い道路の中央が
日本海 と 太平洋の
谷中中央分水界とは驚き!!



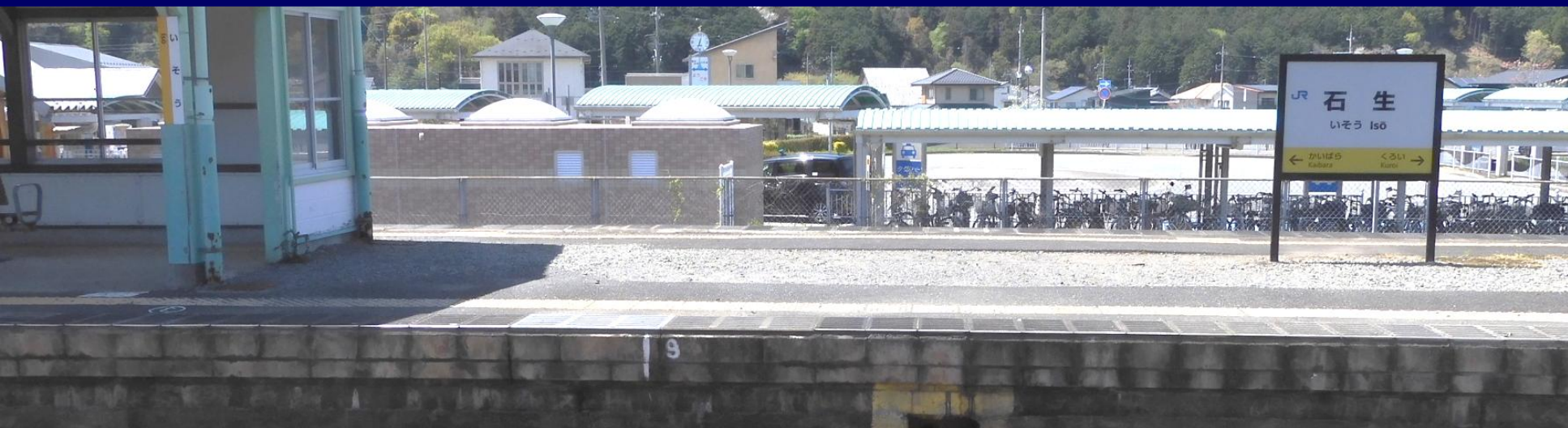
さて、昼めしは
分水界のすぐ近くにある
「くい処 仁」へ



笑える 巨厚
「トンカツ」



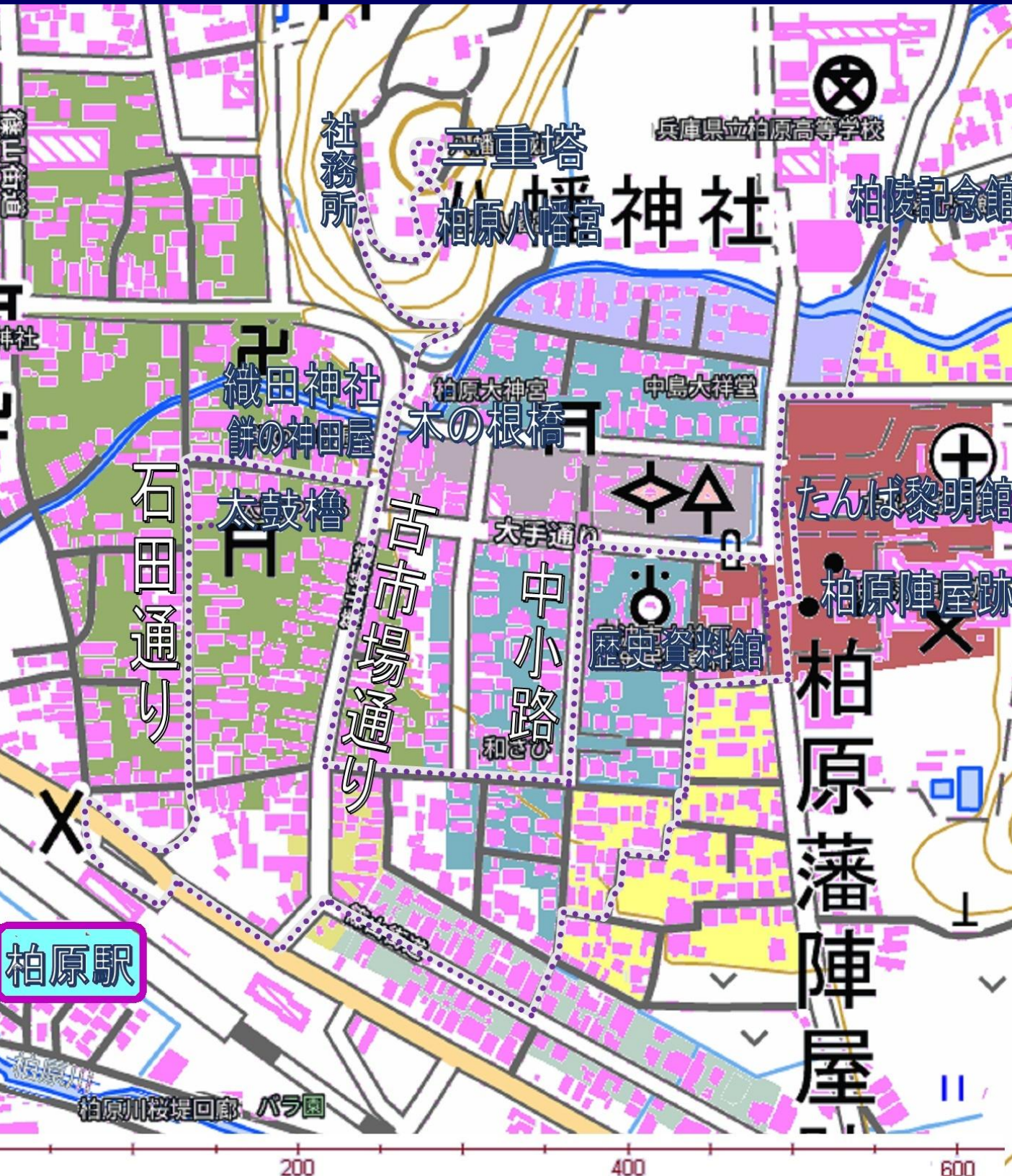
**あまりの大きさに食べきれず、持ち帰った。
家でも、あと二食分はあったという**



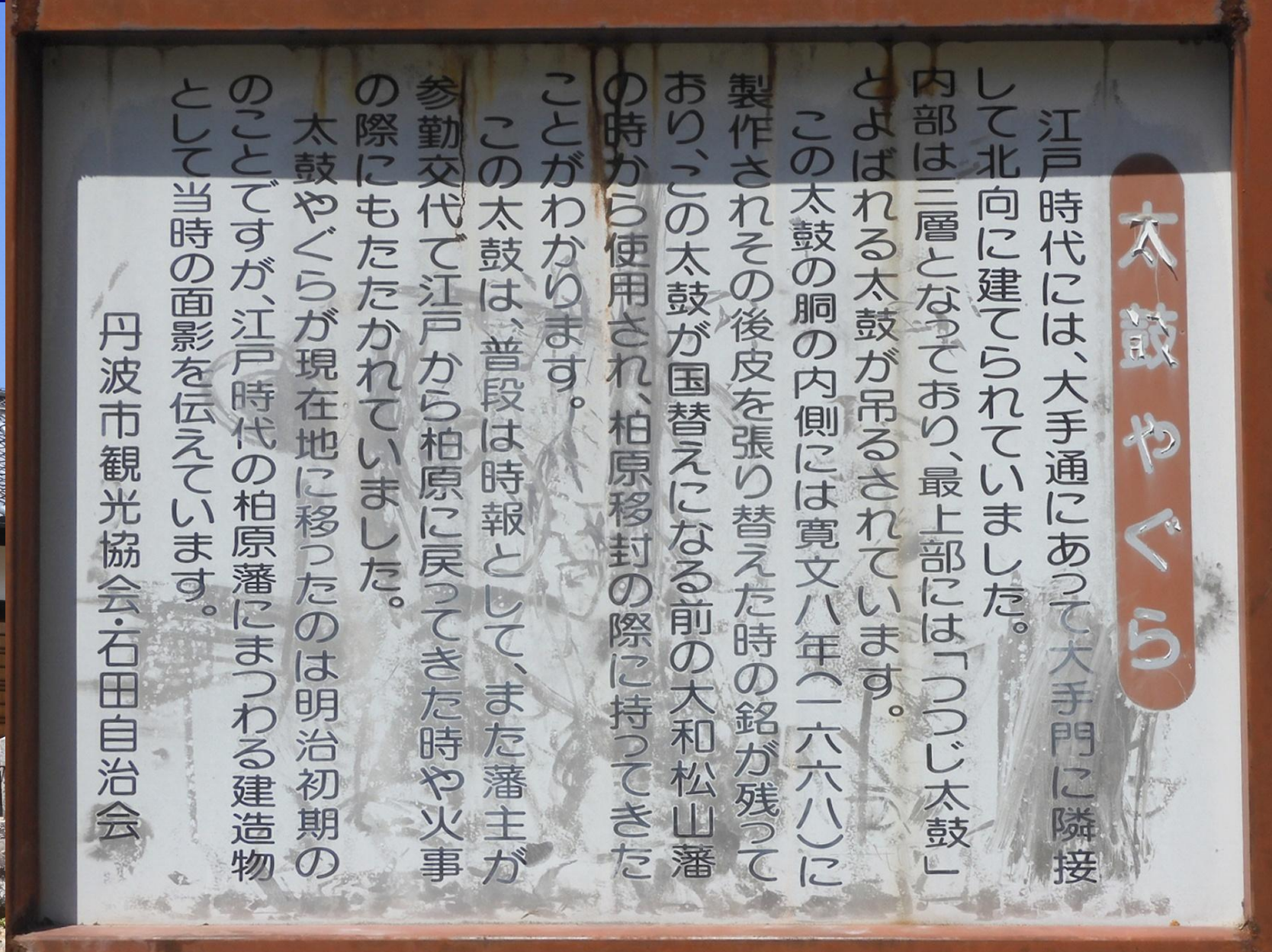
石生駅から
JRを使い 1駅隣の
柏原駅へ移動



ここでは
小さな城下町
柏原の散策



柏原駅前から
商人の町・石田通りを歩き
太鼓櫓へ



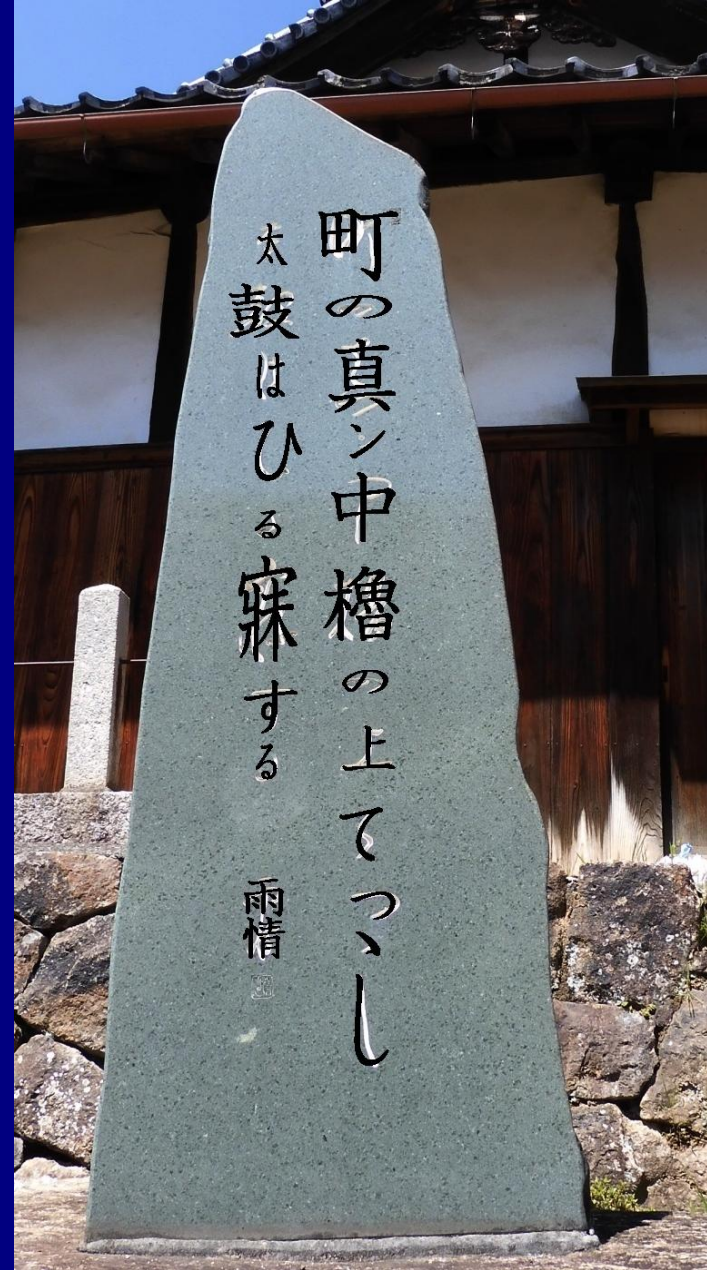
太鼓櫓（たいこやぐら）の説明



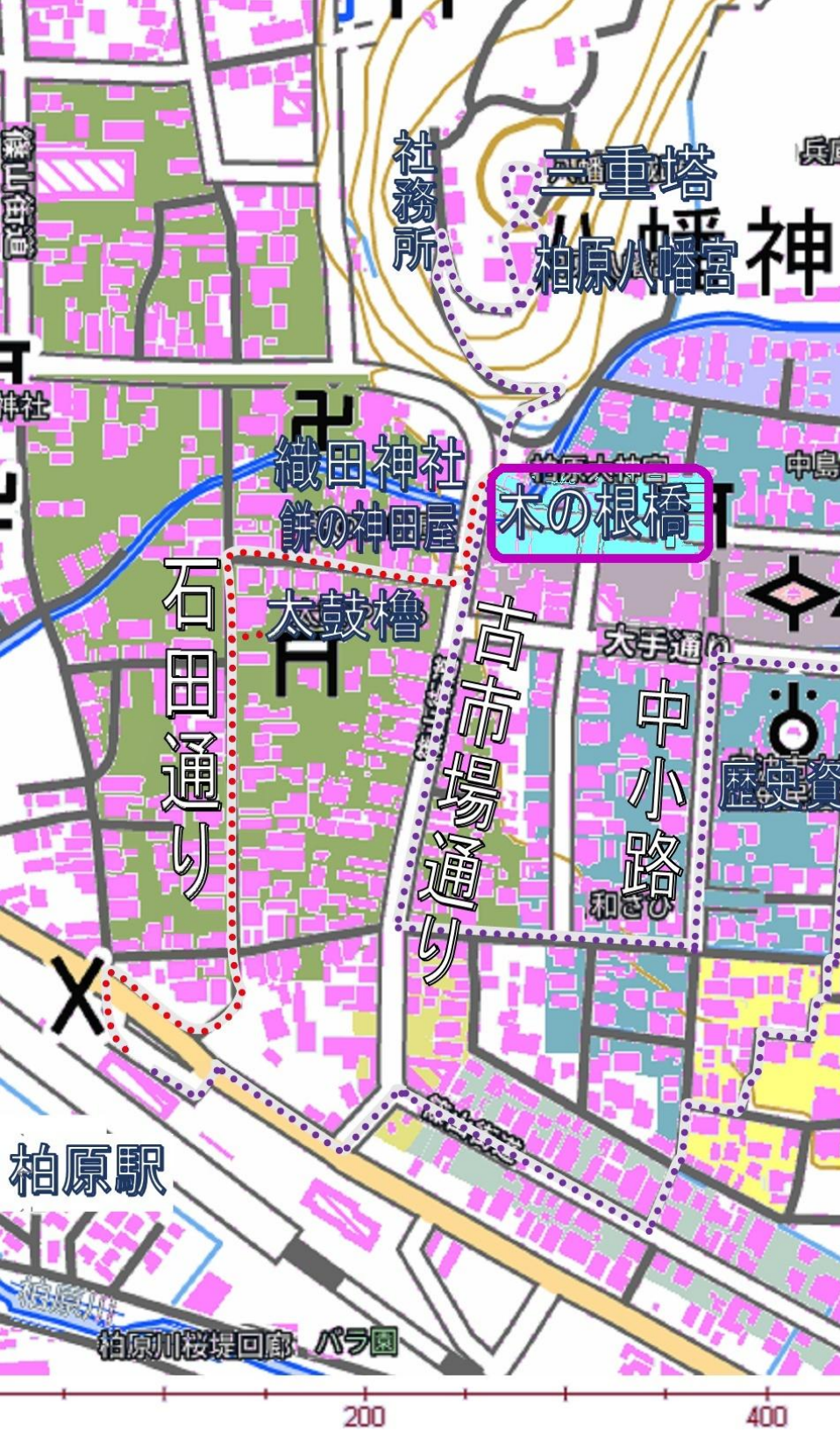
記念撮影
と
気になるけど
読めない石碑

柏原小唄 野口雨情

名さえ目出度い入船山に 町のまもりの八幡宮
青葉がくれの三重の塔を 啼いて空ゆく時鳥
庭の老松アむかしの名残り 今ものばす御殿跡
見たか柏原大神川に かけて渡すは木の根橋
咲いて見事な桜の蔭に 春の花見は鐘ヶ坂
天の橋やら雪さえかけて 鬼の架橋見えかくれ
町の真中櫓の上で つつじ太鼓がひるねする
丹波柏原忘れてなろか 山の中だが城下町
誰と別れか入船山の 夜明け鳥が啼いてくる
昔思えば鐘ヶ坂峠 幾度涙でこしたやら
鬼門封じて名高い寺は 丹波柏原円成寺
いとしなつかし讓葉山の 下は柏原忘らりよか



調べたら
詩人・野口雨情
柏原小唄(自筆)の
一節でした



餅の神田屋 と 木の根橋へ



樹齢1000年ともいわれるケヤキの「木の根橋」。
根がどのように川を渡ったか不明ですが、
橋が「土橋」であった頃に、
土橋の土に根を延ばして川を渡ったのではないかと……
という説がわかりやすいですね



餅の神田屋



八幡宮の鳥居



木の根橋



織田神社(織田信包)

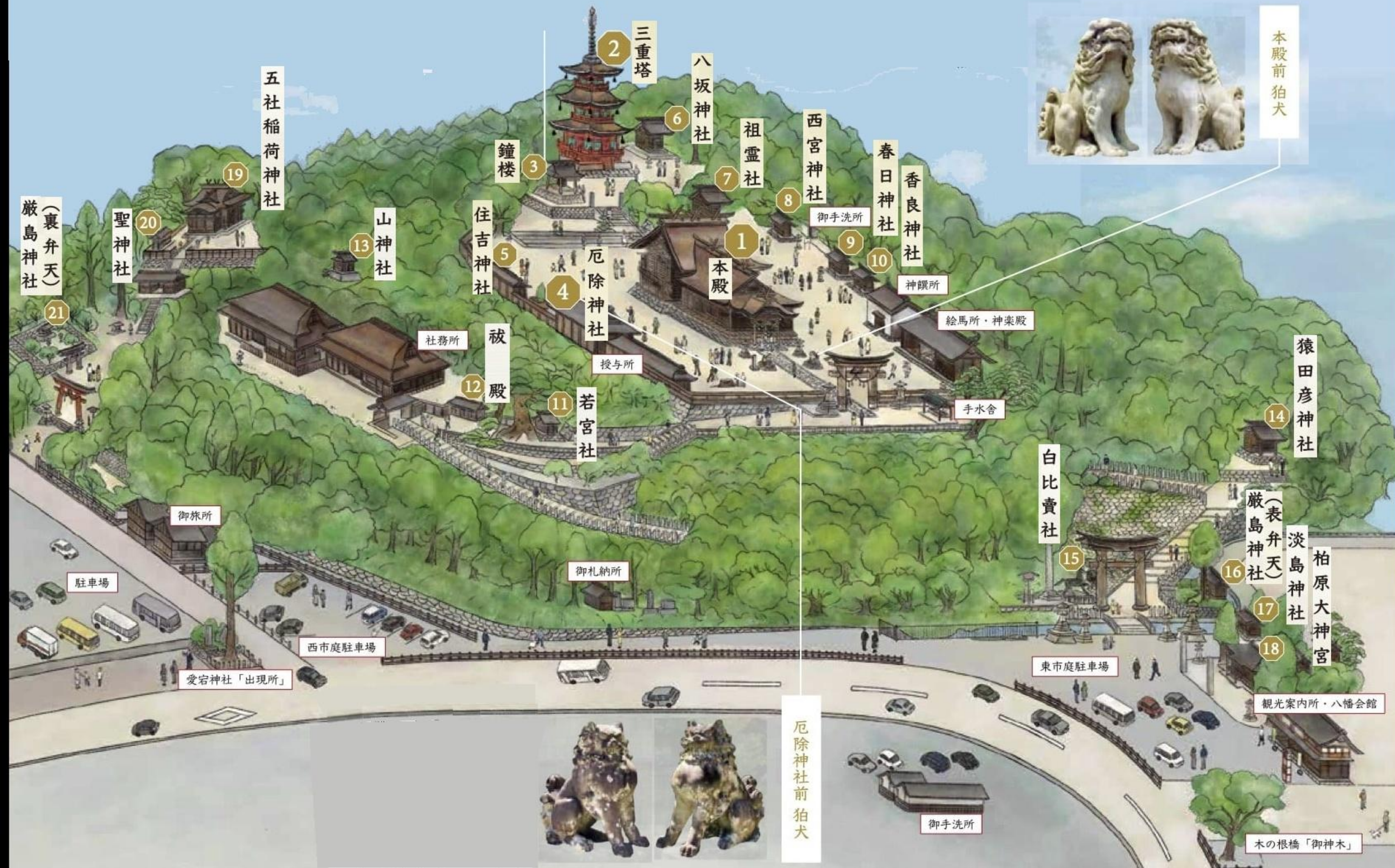
**木の根橋
周辺の風景**



観光協会

柏原八幡宮境内図

八幡宮パンフより



柏原八幡宮

一ノ鳥居にて
記念撮影



**柏原八幡宮
社務所への
階段道**





**社務所は江戸時代までは、八幡山乗宝寺という
八幡宮の別当(組織のトップ)寺院だった**





明治の神仏分離について、ここでは廃物希釈はなく、平和裏に寺が入船山の東麓に降り、仏像、仏具、経典などは、寺に移された。しかし、江戸時代まで八幡神社別当寺だったので経済基盤も弱く、分離後無住寺院になり、2023年秋に建物は老朽化のため解体された。

請け負ったのは地元丹波市柏原町下小倉にある「新憲産業」。

ただ、この寺が由緒のある寺院だっただけに惜しい気がする。

本尊の薬師如来や経典は関係寺院に移されたとのこと。

八幡神の本持仏は阿弥陀如来、では、神仏混淆であった江戸時代には、薬師如来はどこに祀られていたのだろうか。

(写真は健在だったころの乗宝寺)





社務所から階段を登り
左折するとそこは
山のてっぺんだった。
二ノ鳥居の額縁の中に
檜皮葺の社殿と、
三重塔が現れた。

令和八年四月十六日
柏原八幡宮
奉拝
丹波國柏原鎮座

柏原八幡宮由緒

御祭神

- ・菅田別命（応神天皇）
はんだわけのみこと おうじんてんのう
- ・息長帯比賣命（神功皇后）
おきながたらしひめのみこと じんぐうこうごう
- ・比賣命（多紀理比賣命）（多紀都比賣命）（市杵島比賣命）
ひめのみこと たぎりひめのみこと たぎつひめのみこと いちきしまひめのみこと

御鎮座

社伝によれば、舒明天皇の御代（六二九〜六四一）出雲の連らが、当山（入船山）の頂きに素盞鳴尊を奉祀（現八坂神社）したのが当宮の創始と言われている。

その後、万寿元年（一〇二四）に入船山周辺の、三箇処から霊泉の湧出を奇瑞として、後一条天皇の勅旨により国家鎮護として京都の石清水八幡宮より御分霊を勧請し、丹波国「柏原別宮」が創建され社殿を始め多宝塔 極楽寺 大安寺 清水寺ほか五十四坊が造営された。

御神徳

厄除開運、五穀成熟、病患平癒、家内安全、勝運必勝、子宝安産、交通安全、産業興隆の神として尊崇され、とりわけ厄除けの神威が高く毎年二月十七日、十八日に肅行する厄除大祭は「丹波柏原の厄神さん」と親しまれ、北近畿を中心に全国各地より七万人余の参拝者で終日賑わい、十七日深夜から十八日の未明にかけて執り行われる「青山祭壇の儀」は日本最古の厄除神事で、往古の道饗祭、疫神祭の遺風を今に伝える流例伝承の神事である。

建造物

社殿は天正十三年（一五八五）に羽柴（豊臣）秀吉の造営によって再々建されたもので、三間社流造りの本殿に入母屋造りの拝殿を接続し、軒唐破風の向拝一間を張出す複合社殿で、檜皮葺きの屋根に、箱棟、千木、勝男木をのせる。

（大正二年国宝保存法により特別保護建造物に指定、現在は国指定重要文化財）明治維新の神仏判然令により仏像、経巻、仏具の一切を別当寺の東光院（乗宝寺）に移し、円満に神仏分離が行われた。当宮には三重塔（兵庫県指定文化財）鐘楼に釣鐘（兵庫県指定文化財）など神仏混淆当時の景観を今日に保っている。

境内の狛犬

本殿前一对の狛犬は「丹波佐吉」（源照信）の作で、大阪府泉南地方を産地とする、和泉砂岩を原材料とした物で一般に「浪速狛犬」と呼ばれる部類に属するものである。

大新屋村（現柏原町大新屋）で旗本佐野家の代官を勤仕していた、上山孝之進成績と、北山村（現柏原町北山）居住の有力者、田口金次昌栄兩人によって文久元年（一八六一）に寄進したもので、台石の「奉献」の文字は筑前国（福岡県北西部）の女儒亀井少琴の揮毫になる。丹波佐吉の作品は丹波市内に数点現存しており、左記の二点は奉拝、拝観することができる。

・大燈寺

親世音像

（青垣町稲土）

・稲荷神社

狐像の一对

（柏原町北山）

厄除神社前一对の狛犬は柏原町内で木彫作家を営む初代「柏里」（本名磯尾健治）の石材を用いた作品で、昭和二十七年（一九五二）二月に氏子崇敬者によって献納されたものである。

柏原八幡神社

江戸時代の
神仏混淆の
風景

ただ
神社建築に
似せ
乗せた
だけの
千木と鰐木に
違和感を
覚えて
しまう





柏原八幡神社

建物の中に
仏殿の様式が
多く見られる。

拝殿の横にある
大きな華頭窓は
その最たるもの
であろう



**本殿は
神社形式の
流れ造り。**

**しかし
側面に華美な
装飾がびっしり**



他の神社では
あり得ない
のが
三重塔と
鐘楼



三重塔を
単なる
倉庫と
みなし
「八幡文庫」とした
知恵に
敬服する。

県指定文化財 八幡神社三重塔



指定年月日 平成元年3月31日

所有者・管理者 八幡神社

八幡神社は、萬寿元年(1024)石清水八幡宮の丹波別宮、柏原八幡宮として創建された神社である。三重塔は、文化10年(1813)から同12年にかけて建立された。

心柱に「從文化癸酉霜月至同十二乙亥正月」と墨書があり建立の経過は社蔵の日記(文化9年より12年)によって詳しくわかる。各重柱間を三間とする三重塔で、初重内部は四天柱を立て全体に格天井を張り、来迎壁前に須弥壇を据える。心柱は八角で初重丸桁桔木にのせた牛梁の上に立つ。江戸時代後期建立の塔婆で神仏混淆当時の名残りを止めた数少ない歴史的建造物である。

平成元年10月

兵庫県教育委員会

Prefectural Cultural Assets

The Three-storied Pagoda
of Hatchiman Shrine

Kaibara Hachimanguh shrine was built in Tamba area in 1024 as one of the branches of Iwashimizu Hachimanguh shrine located in Kyoto.

This shrine has in its sacred precinct a three-storied pagoda with the Buddhist altar in it.

This suggests that Shintoism and Buddhism co-existed in Japan in old times. The definite records, which were evident by the construction diary and Chinese ink writing on the central pole, show that the construction of the pagoda was started in 1813 and completed in 1815.

The pagoda is made of zelkova and pine and has a roof covered with Hinoki (Japanese cypress) bark.

The ceiling is decorated with latticework.

1989 October

Hyogo Prefectural Board of Education

左から
読み取れるのは
平安末期に、
岩清水八幡宮の
所領地となり
その行政の役所の
別宮が置かれた。
社寺は、信仰の
対象だけでなく
役所を
兼ねていた。
逆に、官衙や
他の荘園から
別宮になるよう
住民から
願い出たのかも
知れない。



八坂神社

三重塔は、入船山のほぼ山頂にあるが、もっとも高いところに「八坂神社」がある。これは、神仏分離で「牛頭天王」という仏教の神を廃さなければならぬので京都に倣って「八坂神社」したのである。

また、牛頭天王の別称は祇園さんである。明治政府が神社に祇園の使用を禁止したが庶民の行事「祇園祭り」の使用禁止し「八坂祭り」とまでできなかったようである。

岩清水八幡宮から八幡神を分霊する遙か以前の古代に、

山頂に「牛頭天王」を祀ったことから、この社がある。明治以降、牛頭天王の垂迹神である「スサノオ」を祀っている。



梵鐘も
住民に時を
知らせる
時の鐘とした
叡智に驚く。

しかも、
秀吉によって
鑄つぶされる
運命であった
梵鐘が
二度も
難を逃れたとは
天晴である。

厄除開運・難逃れの釣り鐘

願い事を込めて心静かに三回鳴らせてください。この釣り鐘は
古来より三回鳴らすと難を逃れ福を授かると言われております。

由緒

康応元年（一三八九）と天文十二年（一五四二）の二つの年号が刻まれており
天正年間（安土桃山時代）に豊臣秀吉が大砲鑄造の為、郡内の鐘を柏原に
集めた際、特に優れた物であり豊臣秀吉が改めて寄進したものです。
神仏分離の際にも棄却を免れ今日に至り兵庫県指定文化財に指定されています。

鐘楼と梵鐘が残ったおかげで 神社で鐘を撞く幸せにひたることができた



神社で鐘を撞くなんて、ここに来ないとできない幸せである





祖霊社

三重塔も鐘撞堂も
仏教の意味を
持たなくなったが
江戸時代までの
神仏混淆の風景
が
ここ柏原八幡社で
体験できる。
また、
この祖霊社は、
仏壇の代わりに
祖先を祀る
ものとして
神仏分離によって
明治以降、神社に
新たに作られた
社だと思う。



もう一度 神仏混淆の風景を



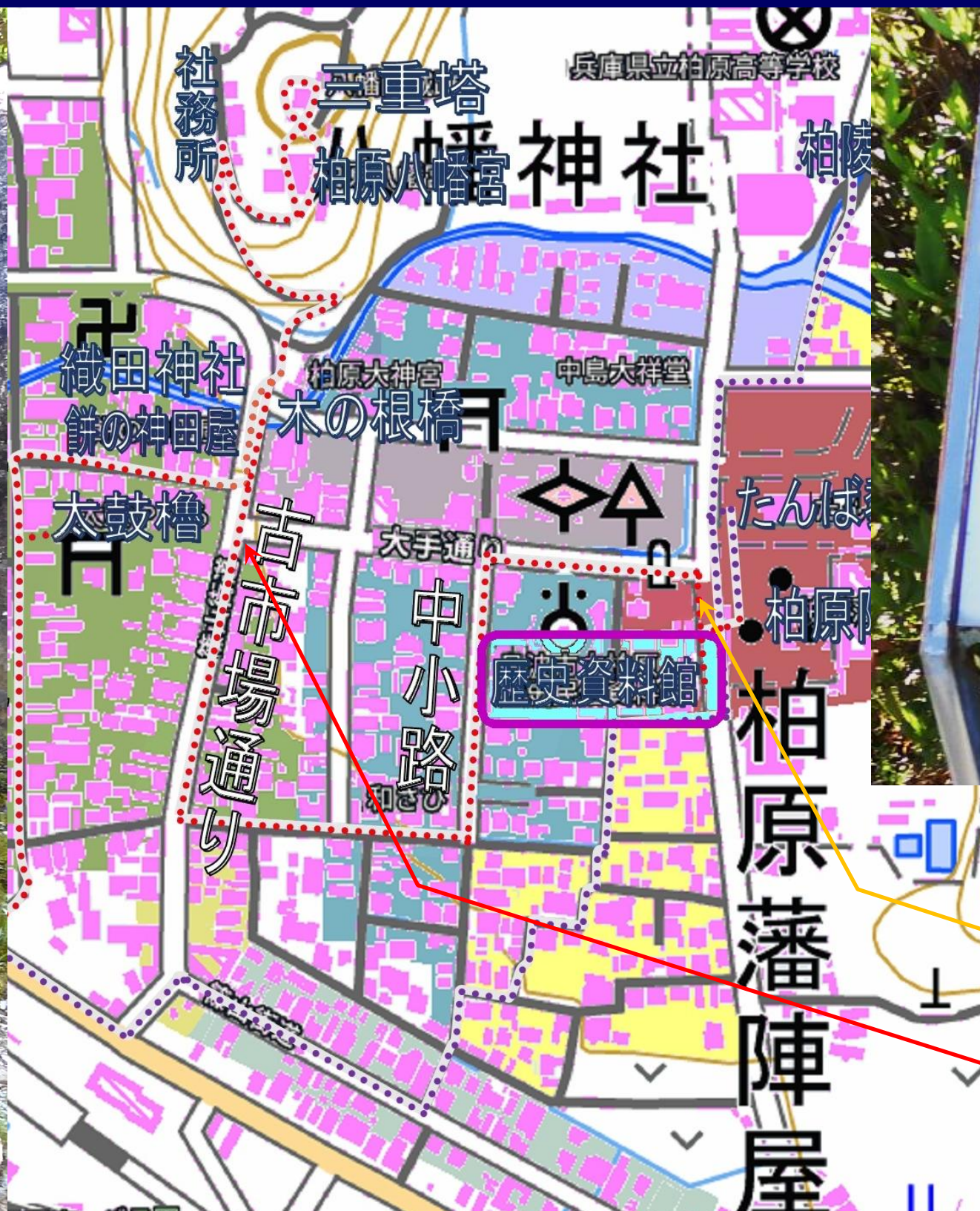


拝殿の前に
置かれた
この狛犬も
有名らしい
ただ、砂岩で
造られているので
摩耗がはげしく
近年、修理された

最後に
一ノ鳥居で
もう一度
記念撮影
神社の別当だった
乗宝寺は、既に
取り壊されて
いるので
行かないことに



柏原大神宮



旧柏原町道路元標

現在地

本来の設置場所



田(でん)すて女

**江戸期の女流俳人
加賀千代女と
ともに有名**

ゆきのあき
このし
このし
たの
あと
ステ



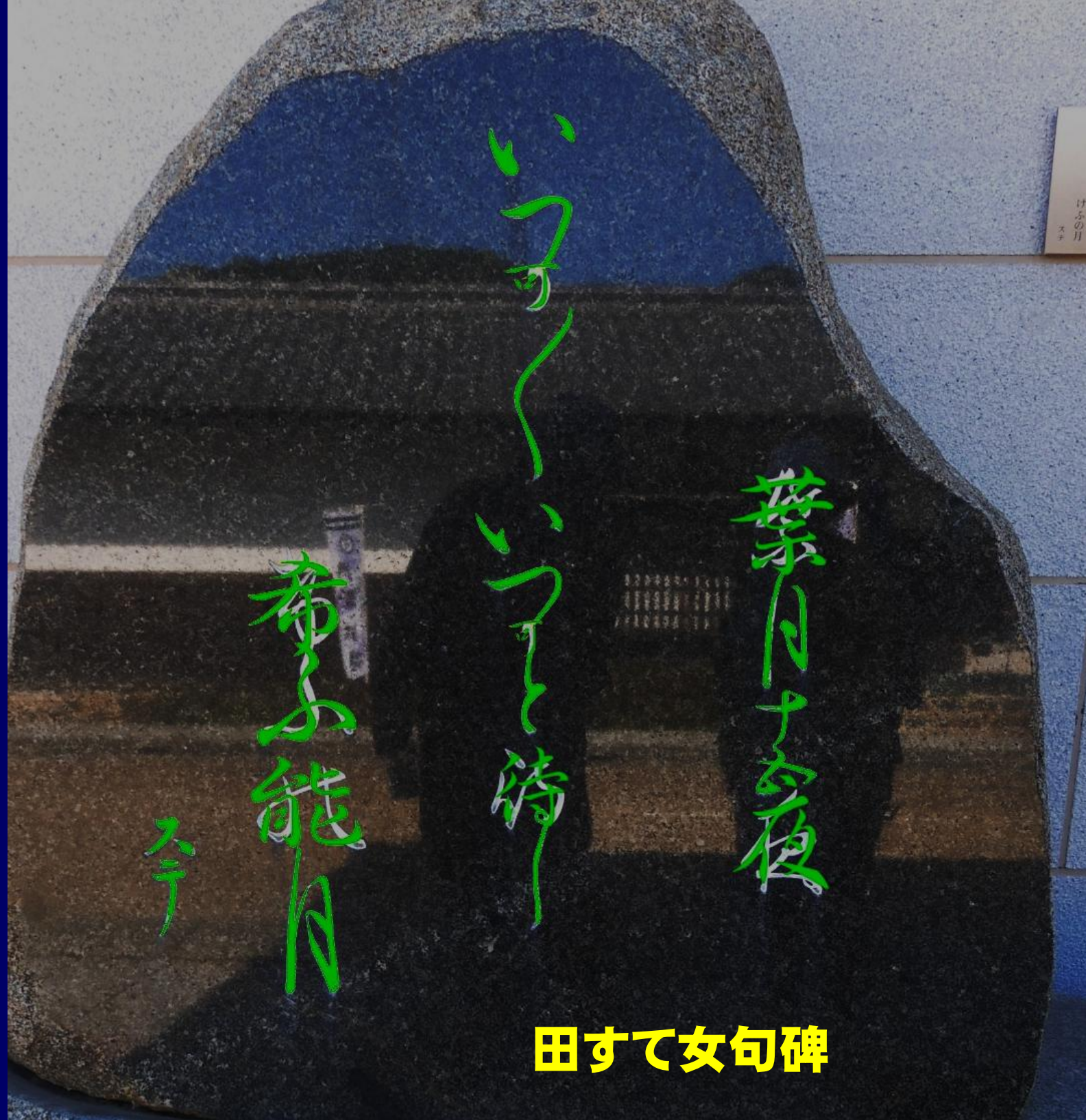
田(でん)すて女

江戸期の女流俳人
加賀千代女と
ともに有名

いつかいつかいつかと待しけふの月

「けふの月」は陰暦八月十五日の名月で十五夜の満月です。随分前から、いつが満月だろうかと思っていた月、その月が今日の名月だ、という意味ですが、「いつか」を三回も反復して、名月を待ち望んでいた気持ちを強調しています。また、この反復は五日が三回で十五、つまり、けふの月が十五夜の月であることを示す言葉遊びです。

ステ女の時代の俳句は、このような機知に富む言葉遊びが特色で、ステ女の頭の回転の速さがこんな楽しい俳句からもうかがえます。



田すて女句碑



柏原歴史民俗資料館・田ノステ女記念館



柏原陣屋

城とはちがい、防衛施設を持たない藩庁を陣屋という



柏原陣屋の模型

現存しているのは
塀の左側に見える
行政の建物だけ
中央部の殿様の
居住建物は
壊されている



北側から見た陣屋



陣屋からは八幡宮の三重塔が見える



**小学校の義務教育が4年間(その後6年に変更)だった頃に
氷上郡にただ一つ作られた4年制の高等小学校である。
明治時代に建てられた校舎が、ほぼそのまま現存。
玄関の上のバルコニーとそれを支える柱が素晴らしい。**



ステンドグラスのある玄関



玄関の上のバルコニー内部

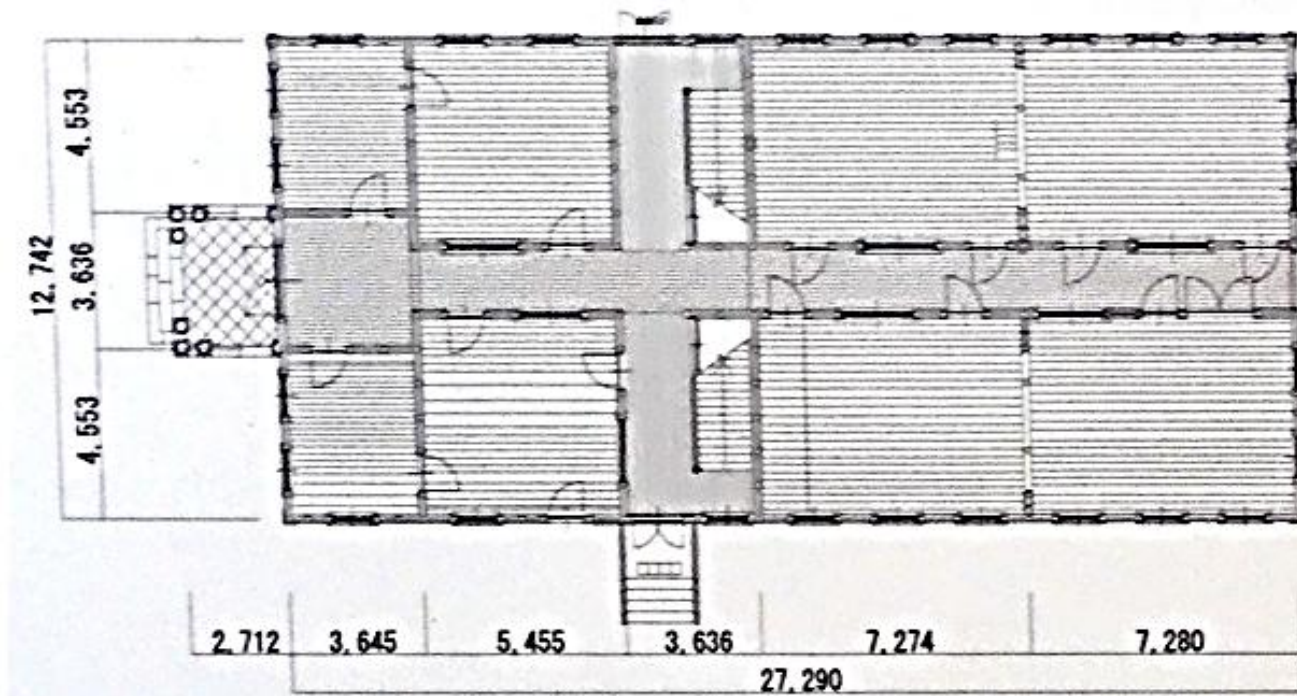


廊下



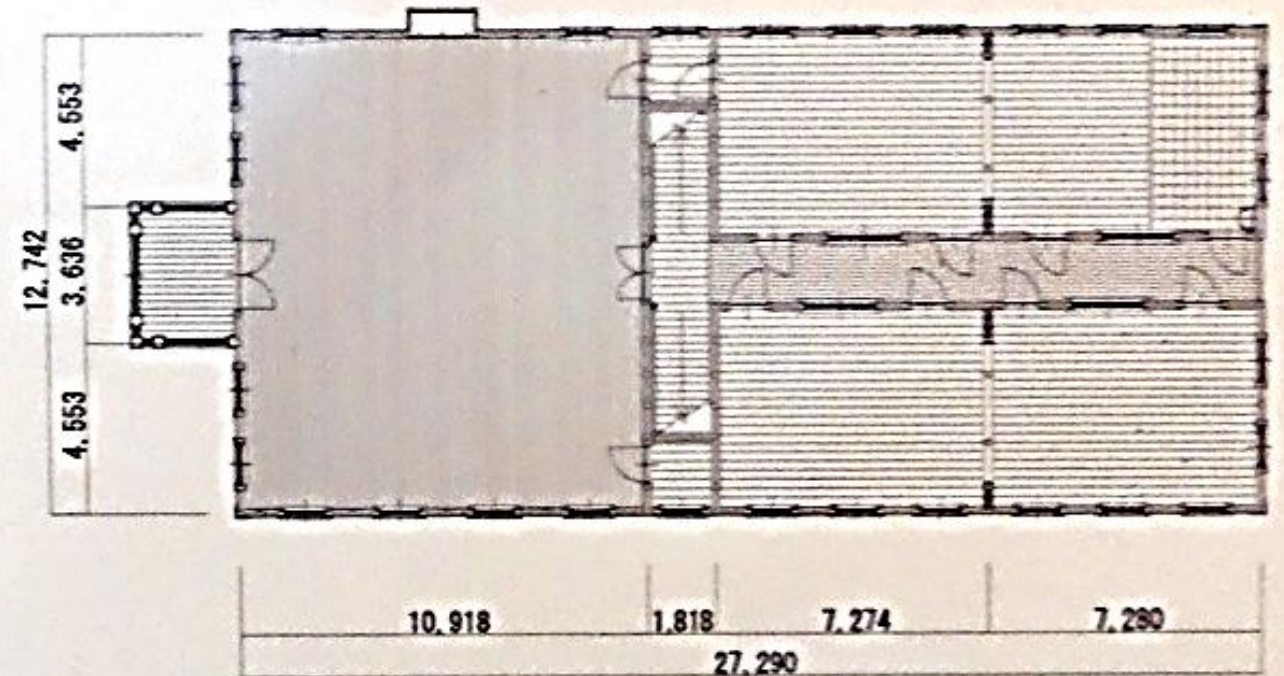
2Fの講堂（奥にバルコニーが見えている）

丹波市立 旧氷上高等小学校校舎



1 階平面図

S=1:100



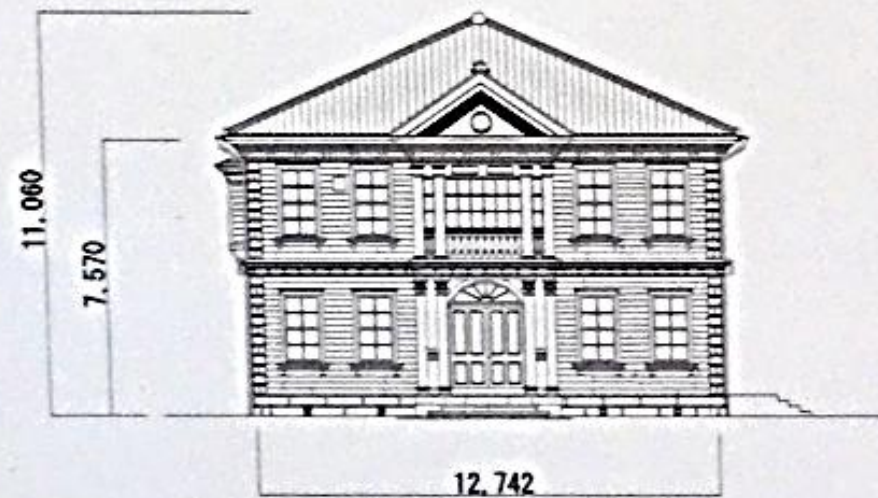
2 階平面図

S=1:100

学校設立当時の正式名は「氷上郡各町村組合立高等小学校」でした。



廊下の同じ位置で階段が離散方向についていました。動線を考えた面白い設計です。



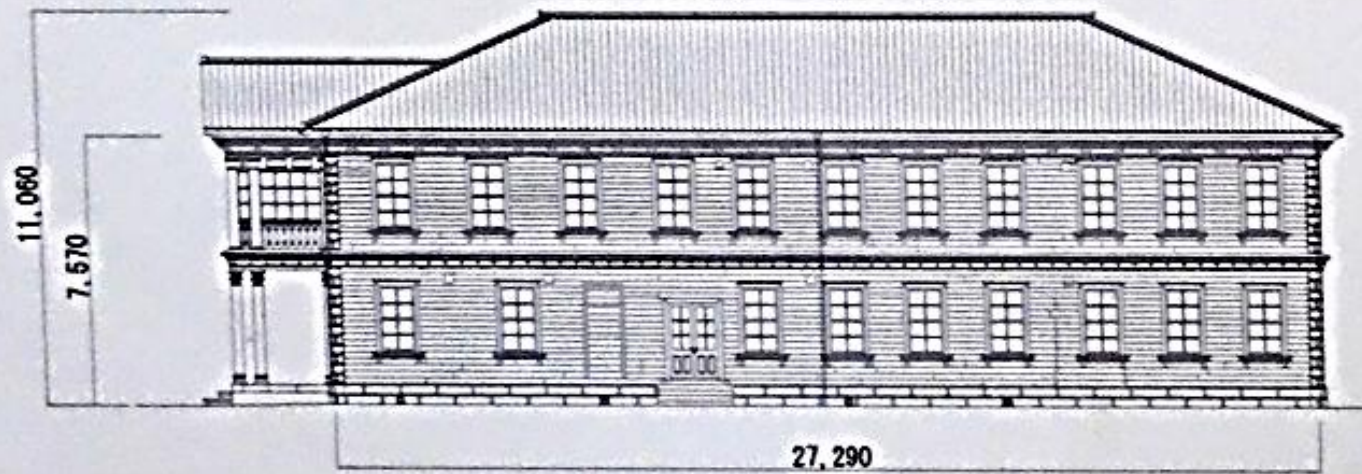
西立面図

S=1:100



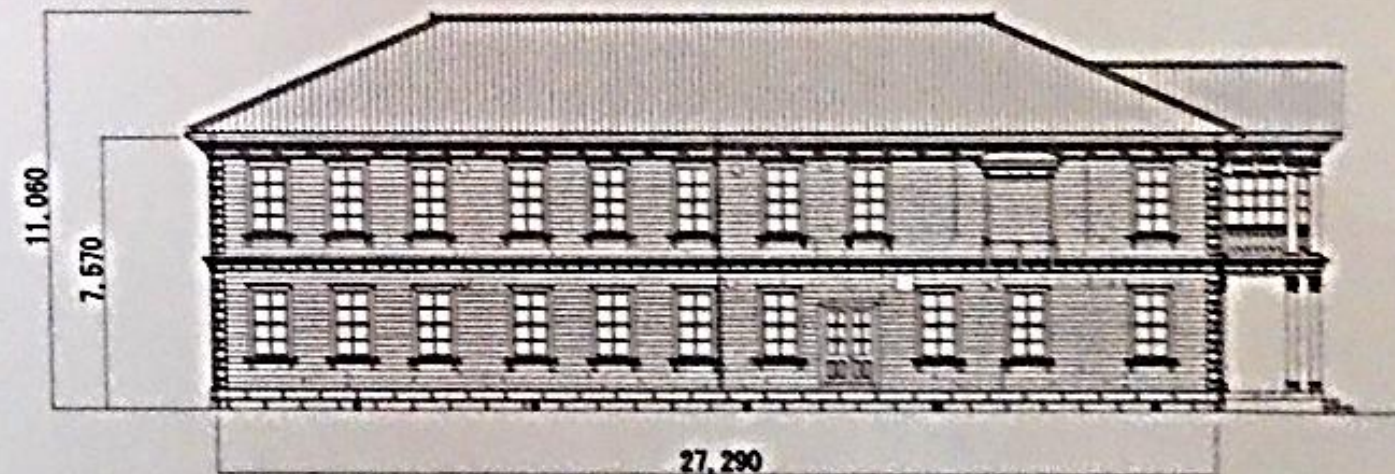
東立面図

S=1:100



南立面図

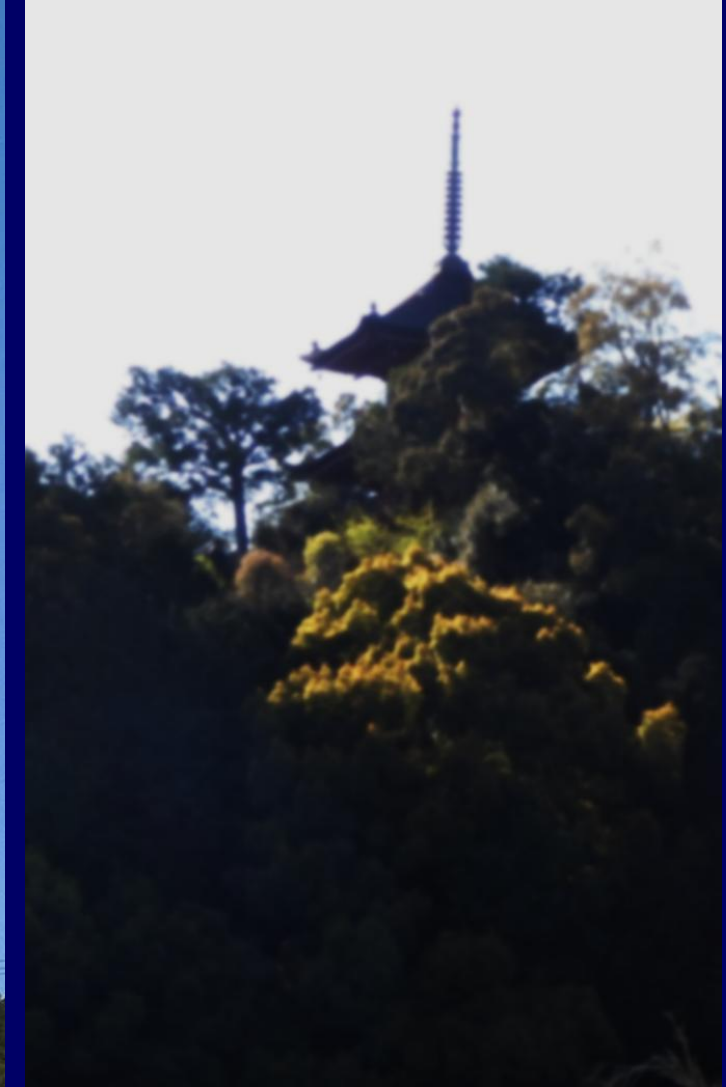
S=1:100



北立面図

S=1:100

兵庫県下では最古級の校舎であり、保存状態もよく建物です。



**奈良・京都のように
ここからも
三重塔が
見えていました**



国登録有形文化財「柏陵記念館」

この建物は、1897(明治30)年、兵庫県柏原尋常中学校(初代 土井亀之進校長)の本館として建てられました。県下で4番目に設置された中学校で、当時は氷上郡立でしたが、2代 大江礒吉校長時代に県立となりました。

木造平屋建、寄棟造棧瓦葺、外壁下見板張で背面にベランダを付しています。正面玄関の屋根(三角部分=ペディメント)を古代ギリシャの建築様式「コリント式」の膨らみのある木の円柱4本が支えており、上部の脇には、鳩の彫刻が施されています。

校舎増築などに伴って、1941(昭和16)年と1960(昭和35)年に移築改修されて現在に至ります。歴史的景観に寄与する擬洋風建築であるとして、2016(平成28)年2月25日に「国登録有形文化財」として認定登録されました。

シンボルツリー「くすのき」、柏原高等女学校校舎(現「丹波黎明館」)とともに、歴史と伝統の証として、柏陵記念館が同窓生・在校生にとって、誇りと心の絆の礎であってくれることを祈念して、この銘板を設置します。

平成29年4月26日

兵庫県立柏原高等学校長
柏 陵 同 窓 会 長



**廃藩で職を失った
士族の子弟たちは
官員となるのが
一番の出世。
当時の公立中学校は、
官員養成所的
存在だったので
小さくても城下町に
設置されました。**



**そんな経緯もあって
兵庫県の中学校は
城下町に次々に
設置されました。
それ故、伝統校は
旧城下町に
多いのです。**



バルコニーが美しい



木造平屋建ての校舎がよくぞ残っていたと感心した



柏陵会館～黎明館～陣屋前～足軽地域～宿場町と散策しながら柏原駅に帰ってきた



朝とは逆コースで
柏原駅=①=谷川駅=②=西脇市駅=③=加古川駅=④=大久保駅
と4本の電車を使い継いで帰ってきました。

第27回 中央大分水界と 織田家の城下町・柏原

おしまい